

# はじめに

成田市教育委員会

教育長 関川 義雄

依然として、新型コロナウイルス感染症が私たちの日常生活に大きな影響を及ぼし続けていますが、この間、市内の各学校では、児童生徒一人ひとりに配備したタブレット端末が、授業の中で有効に活用されるようになっただけでなく、教職員の研修会や校務処理にも積極的に活用されており、ICT機器が、学習や仕事を進めるうえで、欠くことのできないツールとなっていることを実感しています。

一方で、学校教育においては、子どもたちが知識や技能を身につけるだけでなく、その成長過程において、出会う友達との人間関係づくりも大切な学びの一つです。コロナ禍により、マスクを着けて授業に臨んでいる子どもたちの現状は、実践を伴う活動が十分にできなくなっているのではないかと危惧する声もありますが、各学校では、感染予防対策を講じたうえでできる限り予定された行事を実施するよう努めております。

こうした中、入学時から長期にわたる休校を経験し、その後もマスク生活を余儀なくされながら、中学校生活を過ごした子どもたちが、今年度末には、卒業の時を迎えます。厳しい現状にあっても、健康な身体と高い志を持った子どもたちが、巣立っていくことを願わずにはられません。

さて、本年度は、本市で5番目となる親子方式による学校給食共同調理場を、平成小学校に開設し、平成小学校と加良部小学校に給食を提供できるようになりました。こうした親子方式による学校給食共同調理場では、食物アレルギーのある子どもたちに、アレルゲンを除去した給食を提供できるよう特別調理室を設けており、今年度は、学校給食共同調理場で、卵を除去したアレルギー除去食の提供を行っていく予定です。

また、老朽化した学校給食センター本所に代わる、新たな学校給食センターの建設に向けて、設計業務を進めるほか、子育て支援策の一つとして、第3子以降の給食費の無料化を開始しました。学校施設関連では、校舎の老朽化や、児童数の増加が顕著な学校には、それぞれ改修工事や増築工事等を実施し、子どもたちが進んで学び、伸び伸びと育つことができる、教育環境の実現を目指してまいります。

その他、学校教育のみならず、旧滑河小学校校舎を改修し、本年4月に、成田市滑河文化財保存展示施設をオープンしました。文化財の保存だけでなく、下総歴史民俗資料館と併せて、郷土の歴史を伝える貴重な資料等を展示してまいります。

なお、昨年度、一昨年度とコロナ禍で思うような活動ができなかった市民の皆様の自主的な学びを支援するため、生涯大学院や明治大学・成田社会人大学等の学習機会の確保はもちろんのこと、今年度は、感染予防対策を施したうえで、図書館や公民館を活用した様々な市民活動が、適切に実施できるよう努めてまいります。